

日本民俗学会 第 76 回年会（於・東京都）

第 1 回 サーキュラー

日本民俗学会第 76 回年会を下記の要領で開催いたします。本年は東京都渋谷区の國學院大學渋谷キャンパスが会場となります。

今回の國學院大學年会は、國學院大學研究開発推進機構との共催で実施されます。この組織は、國學院大學博物館や折口信夫資料を所蔵する校史・学術資産研究センター、坪井洋文資料を所蔵する学術資料センター、柳田國男が設立と運営に関わった日本文化研究所を包括する機関です。年会当日は、博物館を利用しての催しが検討されていると伺っており、関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

今年は年会全体のテーマは設けませんが、「祭り・芸能をめぐる現代的課題」というテーマのシンポジウムの他に、民俗学が抱える今日的な課題を扱う「課題セッション」をいくつか提案して、会員の研究発表を募るといった企画を行います。もちろん、多様なテーマによる研究発表も歓迎いたします。

皆様奮ってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

一般社団法人日本民俗学会 第 34 期会長 大石泰夫

主催 一般社団法人 日本民俗学会

共催 國學院大學研究開発推進機構

期日 2024 年 10 月 26 日（土）・27 日（日）

会場 國學院大學 渋谷キャンパス（東京都渋谷区東 4 丁目 10 番 28 号）

※ 実行委員会では宿泊等の斡旋は行いません。各自お手配ください。

1. 会場アクセス

渋谷駅（JR・東京メトロ・東急・京王線）より徒歩約20分

恵比寿駅（JR・東京メトロ）より徒歩約25分



- ・都営バス 渋谷駅東口 54 番のりば 学 03 系統「日赤医療センター前」行 乗車
乗車時間約 10 分 「国学院大学前」停留所下車 徒歩 0 分
恵比寿駅西口 1 番のりば 学 06 系統「日赤医療センター前」行
乗車時間約 5 分 「東四丁目」停留所下車 徒歩 5 分

※ アクセスについては国学院大学・東京都交通局のウェブサイトもご参照ください。

国学院大学 —アクセス <https://www.kokugakuin.ac.jp/access>

東京都交通局 <https://www.kotsu.metro.tokyo.jp/bus/noriba/shibuya.html>



国学院大学 —アクセス



東京都交通局（都営バス）—渋谷駅

2. 年会実行委員会事務局

〒150-8440 東京都渋谷区東 4 丁目 10 番 28 号 国学院大学文学部 1108 研究室気付

日本民俗学会第 76 回年会実行委員会事務局

e-mail : nenkai@fsjnet.jp

※ お問い合わせは e-mail をご利用ください。

3. プログラム

10月26日(土) 公開シンポジウム・授賞式・総会・懇親会

- 11:30～ 受付開始
(正門向かい側の学術メディアセンター (AMC) 1階 エントランス)
- 12:30～15:30 公開シンポジウム (学術メディアセンター (AMC) 1階 常磐松ホール)
「祭り・芸能をめぐる現代的課題」
- 16:00～17:50 研究奨励賞授賞式、会員総会
(学術メディアセンター (AMC) 1階 常磐松ホール)
- 18:00～20:00 懇親会 (若木タワー18階 有栖川宮記念ホール)

10月27日(日) 研究発表

- 9:00～ 受付開始
- 9:30～12:00 研究発表
- 12:00～13:00 休憩
- 13:00～17:00 研究発表

※ プログラム内容は変更となる場合があります。

※ 詳細は、参加等申込者に9月中旬に発送予定の第3回サーキュラーでお知らせいたします。

4. 参加・発表申込

- 参加・発表を希望される方はオンラインフォーム、または申込用紙による FAX・封書のいずれかでお申し込みください。運営の効率化のため、オンラインフォームのご利用にご協力をお願いいたします。
- オンラインフォームは第76回年会ウェブサイトのリンク(<https://www.nenkai76.fsjnet.jp>)を使用するか、以下のQRコードよりアクセスしてください。



参加申込フォーム

<https://forms.gle/rS2huRKULr2UGoYW9>

- オンラインフォームでの申込は 2024年7月5日(金) までに完了してください。
- FAX・封書による申込の場合、同封の申込用紙を使用し、日本民俗学会年会実行委員会事務局(服部)と宛名を明記してください。

FAX 03-5466-4814

封書 〒150-8440 東京都渋谷区東4丁目10番28号

國學院大學文学部 1108 研究室気付 日本民俗学会第76回年会実行委員会事務局
までお送りください。2024年7月5日(金) 必着とします。

- 出張依頼状が必要な方は、オンラインフォームまたは申込用紙の所定欄にチェックの上、必要事項をお知らせください。
- 託児室・託児費用補助の利用をご希望の方は、「8. 託児室・託児費用補助の申込」をお読みいただき、オンラインフォームよりお申し込みください。
- 参加申込用紙には、住所変更など年会に関わらない連絡事項の記載をご遠慮ください。
- お送りいただいた個人情報は、第76回年会に関わる事務にのみ使用し、終了後は適宜廃棄します。
- 第2回目以降の紙でのサーキュラーは、参加申込をされた方のみにお送りします（電子版サーキュラーは年会ウェブサイトにも掲載します）。

5. 参加費

年会参加費	前払い	当日
会員（一般）	2,000 円	3,000 円
会員（学生）	————	無料
非会員（一般）	————	3,000 円
非会員（学生）	————	無料
懇親会参加費	※前払いのみ。非会員は参加できません	
会員（一般）	5,000 円	
会員（学生）	2,500 円	

懇親会場の収容定員に限りがありますので、懇親会の参加は事前にお申込の上、参加費を前払いしていただいた方に限らせていただきます。また、参加者多数の場合は申込者の先着順となり、参加をお断わりさせていただく場合もあります。ご了承ください。

発表要旨集 1,000 円（当日のみ）

発表要旨集は原則として電子版（PDF ファイル）での公開となります。お手元での印刷をお願いいたします。印刷版をご希望の方は1部1,000円で、当日、特設販売所にて頒布いたします。印刷部数に限りがございますので、売り切れの場合があります。また、郵送等の対応はいたしませんので、ご了承ください。

※本年会では弁当の販売はいたしません。各自ご用意ください。

- 渋谷駅～会場近辺にはコンビニエンスストア、スーパー、飲食店があります。
- 大学内の食堂は、土曜日は営業しておりますが、日曜日は休業となります。

年会参加費・懇親会参加費の納入期限は9月30日（月）です。それ以降は年会当日に、当日料金でお支払いください。

- 参加取り止めの場合は、必ず事前に年会実行委員会事務局までご連絡ください。

参加を申込み、費用未振り込みのまま、連絡なしで欠席された場合には、後日費用を請求いたします。

- 納入いただいた参加費等は、原則として返却しません。ご了承ください。
- 納入方法は第2回サーキュラーにてお知らせします。

6. 研究発表

一般発表

- 発表 20 分・質疑応答 5 分・移動 5 分を原則とします。
- 一般発表を行う方は、オンラインフォームもしくは参加申込用紙にてお申込ください。
- 発表内容は未発表のものに限ります。
- 各会場に PC 用プロジェクターを用意いたします。PC 使用の場合は各自ご持参ください。発表会場のプロジェクターは HDMI 接続です。接続に必要なアダプター等は各自でご用意ください。
- 発表は日本語でお願いします。

グループ発表

- 統一テーマのもとで 4 名以上の発表者からなるグループ発表を受け付けます。うち 1 名をグループ発表の代表者としてお申込ください。
- 代表者以外の発表者・コメンテーターも各自「研究発表申込」を行ってください。特にコメンテーターは申込をされなかった場合、氏名がプログラムに記載されませんのでご注意ください。
- グループ発表の時間枠は 120 分となります。枠内の時間配分は代表者にお任せいたします。
- グループ発表には学会側からの座長の配置はいたしません。グループ内で適宜司会をご設定ください（グループ発表の司会はプログラムには記載はいたしませんので、ご了承ください）。
- グループ発表で使用できる機材は一般発表と同じです。

課題セッション発表

- 課題セッションとは、年会実行委員会が提示した課題（テーマ）に沿った個人発表を募集する形式です。発表時間・使用できる機材は一般発表と同じです。同一的な課題での発表の場を設け、諸問題を共有化することで今後の研究に期することを目的としています。今大会では、以下の 4 種類の課題（テーマ）を設定しました。
- それぞれの課題（テーマ）に対し、3 名以上のエントリーが確定した場合、課題セッションを開設いたします。課題セッションが開設されない場合は、個人発表としてプログラムに組み込みます。座長は実行委員会で依頼いたします。

課題セッションの内容

①列島文化をどうとらえるか

各地の伝承内容の比較対照をもとに列島文化を俯瞰する研究は古くから行われてきた。具体的には、民俗分布から列島文化の位相を捉えたり、その様相から文化領域論、東西文化論、南北文化論などが検討されたりしてきた。民俗学は、人文学のなかではこうした視点をもつ数少ない分野の一つで、改めてこの課題を再検討し、そこに存在する諸問題や新たな知見を共有するセッションとしたい。

②「死」をめぐる民俗

「死」をめぐる民俗は、脳死・臓器移植、家族葬、墓じまい、死者供養など、いくつもの場面で大きな変貌が続き、それは死生観のあり様とも関連している。また、多くの人が亡くなる災害や事故などでは、死者・関係者へのさまざまな対応が取られている。これらの実態も含め、新たな局面にある葬送・葬法・墓制などを民俗学からどのように捉え、考えるかのセッションとしたい。

③現代世相と民俗

「民俗」とは何かという問いは、常に存在し続けた課題だが、ここにはその「民俗」と「世相」や「大衆文化」「国民文化」との関係性をどう考えるかという問題がある。「世相」「大衆文化」「国民文化」とは何かとか、民俗学はこれらを捉える方法を持つのかなども含め、改めて民俗学の現代社会への向き合い方を検討するセッションとしたい。

④地域史と文化財

民俗学研究者は、これまで自治体史の「民俗編」編纂あるいは民俗誌作成を通じて地域文化の叙述に携わり、また文化財保護法における「民俗文化財」という分野において、大きな役割を果たしてきた。こうした活動に内包されている諸問題を改めて整理し、今後の民俗学にむけて諸課題を共有するセッションとしたい。

- 課題セッション発表を希望される方は、オンラインフォームもしくは参加申込用紙にその旨を明記してお申込ください。
- 課題セッションで使用できる機材は一般発表と同じです。

- ※ 同一人が一般・グループ・課題セッションの各発表に同時に申し込むことはできません。
- ※ 発表時間帯の指定はできません。
- ※ 申込後、期限（8月31日）までに発表要旨をお送りください。要旨の形式等の詳細は、第2回サーキュラーにてお知らせいたします。

7. 発表資格

- 第76回年会における発表資格条件は、2024年5月末日時点で2024年度の会費を納入済みの会員、ならびに名誉会員です。会費納入にご注意ください。
また期限（8月31日）までに発表要旨の提出がない場合、発表取消となりますので十分ご注意ください。

8. 託児室・託児費用補助の申込

- 会場には有料の託児室を設置いたします。また、年会に参加する会員がご自宅近くの託児所やベビーシッターを利用される場合にも、その費用の一部を補助します。
- 補助の対象となる託児先は、託児の人数・日付・時間と連絡先・支払い額が明記された利用明細を提出できる事業者を利用した場合とさせていただきます。補助金額の割合や上限については、会場託児室の料金設定とあわせて検討中です。補助の支払いは、年会終了後に、大会実行委員が利用明細を確認した後となります。
- 託児室・託児費用補助を希望される会員は、オンラインフォームでお申し込みください。利用日や利用人数・年齢等についてご入力いただきました後、料金もしくは補助金額等の詳細につきまして個別にご案内いたします。
- 申込期限は 8月31日（土） です。



託児室・託児費用補助申込オンラインフォーム

9. 書籍販売・頒布の申込

- 会員および出版社が会場で書籍の頒布・販売を希望される場合、7月上旬までに年会ウェブサイトに掲載する申込み方法に従って手続きをとってください。申込期限は8月31日（土）の予定です。参加費は無料です。

10. 今後の日程

- 7月5日（金） オンラインフォーム・申込用紙での参加・発表申込期限
- 7月中旬 第2回サーキュラー発送予定（参加・発表申込の方のみ）
内容：年会参加費・懇親会参加費納入方法、その他年会参加に関する連絡事項、発表要旨の提出方法、発表要領、書籍販売・頒布申込要領、出張依頼状（希望者のみ）、他

- ・ 8月31日(土) 発表要旨提出・書籍販売申込期限・託児希望申込期限
- ・ 9月30日(月) 年会参加費・懇親会参加費納入期限
- ・ 9月中旬 第3回サーキュラー発送予定(参加・発表申込の方のみ)
内容：会場案内、発表要領、各発表プログラム、他

11. 公開シンポジウム「祭り・芸能をめぐる現代的課題」

趣旨

日本民俗学は、民俗の現場から課題を立上げ、その課題についての伝承実態とその仕組み、各地の比較研究に基づく地域差やその事象の歴史的推移・変遷などを明らかにしてきた。ここには社会・文化の推移のなかで、「民俗」とは何かという根源的な課題も存在するが、研究の目的については、現代もこれを持ち続けている。

研究の基本は民俗の現場にあることから、今回のシンポジウムでは各地でその継承への取り組みが行われている祭り・芸能に焦点をあて、その現場がどのような課題を抱えているのか、論点の所在を明らかにすることを目的としたい。このことは一方では、現代社会が抱えている諸課題が、その祭り・芸能に映し出されているともいえる。たとえば従来、その斎行者が男性だけに限定されていた祭り・芸能において、女性参加を認めたり、促進したりしようという動きは、男女が自らの意思によって参画できる社会の実現、ジェンダー差の解消など現代社会が求める社会像の実現希求が映し出されているといえることができる。

祭り・芸能の現場には、このように当事者が内部から今後の継承等にむけた取り組みと、社会状況の反映による取り組み課題がいくつもあることが予測でき、シンポジウムではこうした動向を研究論点として確認し、提示したい。

コーディネーター：小林 稔（千葉県／國學院大學観光まちづくり学部教授）
：鈴木明子（東京都／國學院大學文学部兼任講師）
：八木橋伸浩（東京都／玉川大学名誉教授）

パネリスト：櫻井弘人（長野県／國學院大學文学部兼任講師）
パネリスト：石垣 悟（千葉県／國學院大學観光まちづくり学部准教授）
パネリスト：矢島妙子（東京都／明治大学 法と社会科学研究所 客員研究員）

コメンテーター：須永 敬（福岡県／九州産業大学国際文化学部教授）
コメンテーター：関沢まゆみ（神奈川県／国立歴史民俗博物館教授）
コメンテーター：八木 透（京都府／佛教大学歴史学部教授）